

# タジキスタンのゾロアスター教拝火寺院

## キャミラ・マジュルーノヴァ

ユーラシア研究フォーラム2019 2019/12/7 於奈良県立大学  
「ゾロアスター教と大乘仏教」登壇発表より

※航空便の事情により旅程が2日間以上に及び、約半日遅れて来日され、閉会間際の為予定内容を要略された講演となった。

はじめに

皆さんこんにちは。まずは大変遅くなったことをおわび申し上げます。それから、お越しいただきましてありがとうございます。

今日は現在のタジキスタン国内における古代の火の寺院の歴史と祭儀についてお話ししたいと思います。

古来アーリア人は、サーサーン朝を通じてゾロアスター教が現れるまでは、火を崇拝する宗教を信仰していました。これは、予言者ゾロアスターが登場し、サーサーン朝時代に彼の教えが神聖化される以前から存在していました。火を崇めるすべての人たちにとって、最も重要で一般的な宗教上の原則というのは、アーリア人の最高神アフラ・マズダの存在を認め、これを崇拝することです。アフラ・マズダは、アーリア人の宗教において、もともとは形がなく認識不能な最も崇高な精神的存在であると考えられており、天にある太陽と月に具現化されています。



キャミラ・マジュルーノヴァ

1987年生まれ。タジキスタン・ドゥシャンベ出身。2013年タジキスタン共和国国立大学社会学部卒業。主な著書・論文は「History of development of academic sciences in Badakhshan、(バダフシャーンにおける学問的科学的発展史)など。タジキスタン国立古代博物館職員。(フォーラム発表当時)

## 1 古代におけるカロンの火の寺院

古代のカロン（約4000年前の都市遺跡）における拝火寺院から、当時のアーリア人の宗教の様子を知ることができます。タジキスタンでは、そういうものをパミール高原西部バタフシャー州のカロンでも見つけることができます。ここで発見された5つのドーム、火の寺院と聖所は、ゾロアスター教のものであるとされています。



The ancient fire temples in Pamir (1/3)  
Karon - the ancient fire temple in Pamir, western Badakhshan



The ancient fire temples in Pamir (2/3)  
KafirKala Zoroastrian fire temple in Boghev, Suchan, Pamir, dates back to V-VI AD



The ancient fire temples in Pamir (3/3)  
Vrang Zoroastrian fire temple (V-VI AD)

パミールの古代の火の寺院址  
上から、カロン、カフィルカラ、ヴラング



ここには他にも、カフィールカラで知られている火の寺院の存在が確認されています。この歴史的な遺産は、ブブノワ教授 (Mira Bubnova) が発掘しました。

パミールのヴラングでもゾロアスター教の寺院が発見されました。これもブブノワ教授によって発掘調査が行われました。ブブノワ教授は、これは仏教寺院だと主張していますが、別の研究者は、これはゾロアスター教の拝火寺院で、紀元前5世紀から6世紀に建てられたものだと考えています。寺院は円形で、中央に四角い祭壇があります。

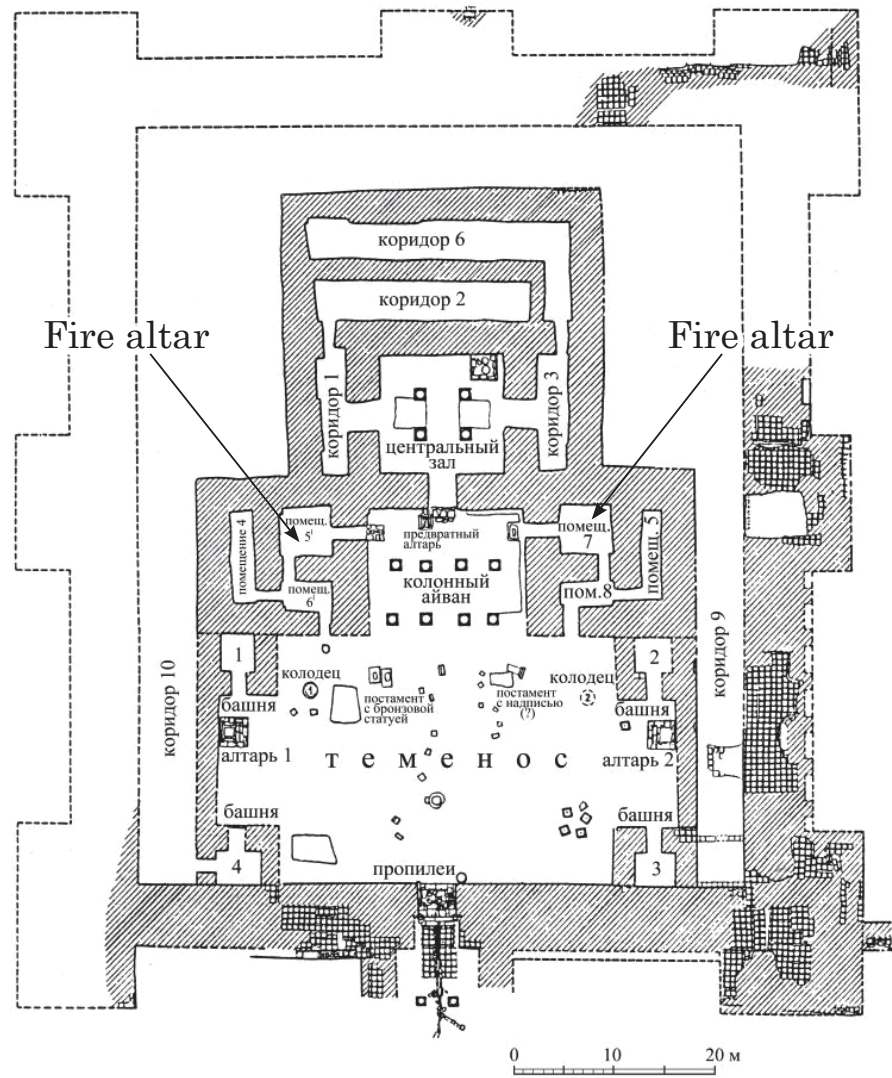
**資料1**は、パミールの建物で、現地語で「チート (Chud)」といわれます。家の屋根がゾロアスターの太陽・地球・水・火を象徴しています。パミール人の家は四角く、入り口の右側に円形の暖炉があります。旅立つ前や結婚式では、この暖炉に向かって必ず頭を垂れることになっていまして、この地域では今もその伝統が残っています。

## 2 紀元前6世紀、紀元前4世紀の

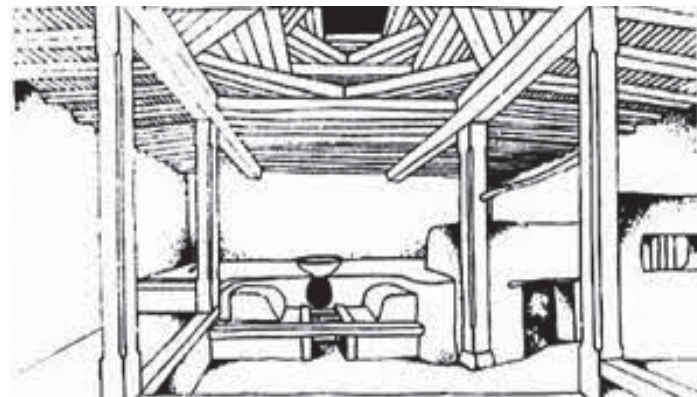
### タフティ・サンギン遺跡の火の寺院

**資料2**は、タジキスタンの南部にあるタフティ・サンギン遺跡 (BC 5世紀〜AD 5世紀) の火の寺院です。火の寺院の祭壇の後ろには、灰を貯めておく

場所があります。すべての祭壇や灰の貯蔵場所は、破損の可能性を想定して、耐久性に優れた日干し煉瓦で上部が覆われています。



**資料2**  
Takhti Sangin Oxus temple  
Takhti Sangin fire temple (V-I BC, I - V AD), discovered by B.A Litvinskiy



**資料1**  
Sacred hearth in Pamiri house  
Traditional Pamiri house, locally known as 'Chud',  
embodies elements of ancient  
Aryan philosophy – including Zoroastrianism.



この遺跡は、オクス寺院があることで世界的に有名で、アテシユガー (atashgah) や灰をためておく穴があることから、オクス寺院がゾロアスター教の寺院だったことが明白です。しかしオクス寺院はギリシヤの影響も受けています。

### 3 ソグド州における火の寺院の考古学調査

資料3は、ソグド州北部地域（クム、アクテツパ、カルダニ・ヒソール、ハヴルジュシヤ）における火の寺院の考古学的調査です。考古学調査が行われ、数の聖所、拝火壇、火の寺院が発見されました。宮殿内はほぼ当時のままの姿で見つかりました。宮殿内の様子が分かる写真があります。

ゾロアスター教の寺院では、火が絶やされることはなく、宗教上の儀式では、古代イラン社会の特別な部族である信者たちがその火の前に立っていました。いずれの火の寺院も、中央がドーム状になった密閉型の構造で、祭壇は広く四角い部屋の中央に造られていました。

この歴史および考古学的資料から、タジキスタンにおける火の寺院 (Orashkada)、火を祀る聖所、拝火壇が他と形状が全く異なり、機能についてもその一部が異なっていたことが分かります。パミール地方の火の寺院は、覆いがない種類の建物です。そして、屋根の部分、上部も覆われていませんでした。一般的には、高原や小高い丘の上に建てられており、これに対して南部と北部では、要塞内に建てられていた傾向があります。ただし、火と信仰の意味を除けば、パミール地方の寺院と同じであると言えます。

以上、報告させていただきました。ありがとうございました。

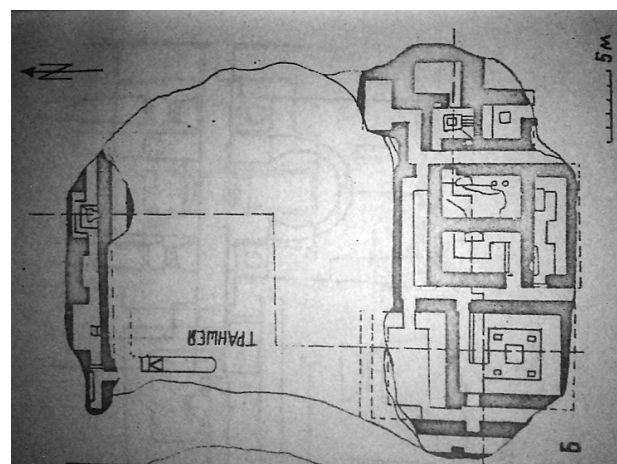
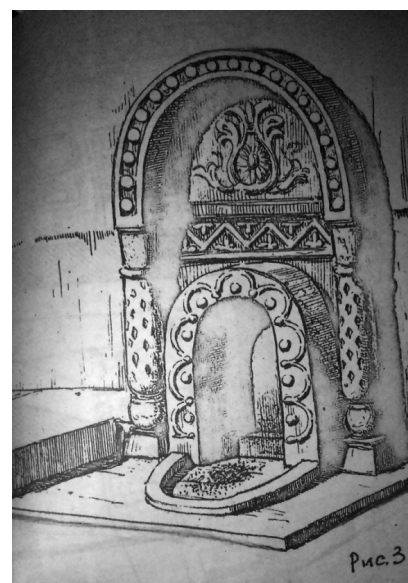
\* \* \*

中島 .. 本当にお疲れのところをありがとうございました。疲れに追い打ちをかけるようですが、質問させてください。一つの国の中でも、地域によって、拝火神殿の建て方や拝火施設が違うという話でしたが、違うことよって、教義や祭式も違ってくるかと考えた方がいいのですか。マジュルーノヴァ .. ご覧いただいたように、タジキスタンの火の寺院の形状は、全て異なっています。山岳部もあり、丘の上などで火が保たれていました。

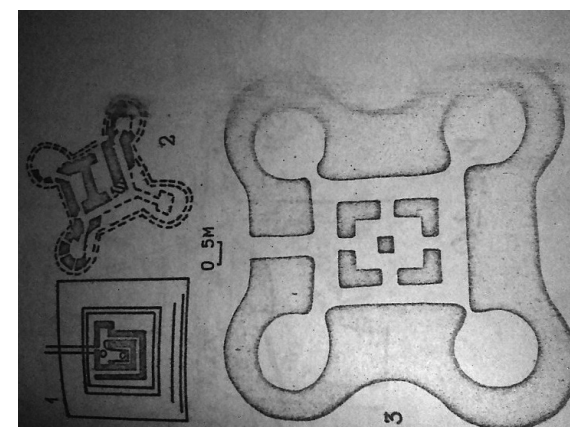
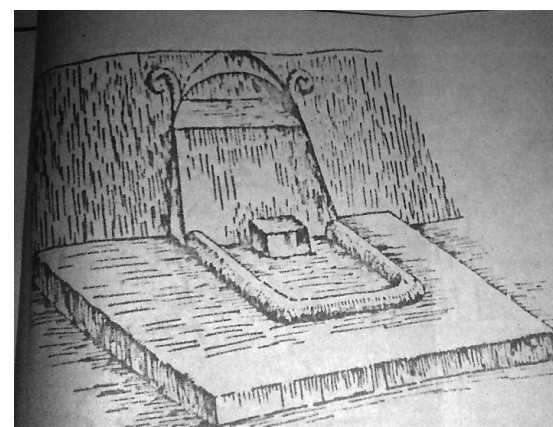
しかし北部や南部では宮殿内に置かれていました。このような地方には王国があったので、宮殿内の寺院の中で火が保たれていました。パミリアンは山岳地帯ですので、そのようなところに置かれていたということですね。崇拜と教義は同じで、火の置かれている場所、扱いが違うだけです。

中島 .. ありがとうございます。明らかにゾロアスター教でも、地域や環境によって多様になっていく可能性があるというお話でした。お疲れのところ、本当にありがとうございました。

(了)



資料3-2  
Archeological findings of fire temples in the Soghd region  
Some Sanctuaries, fire altars and Temples of Fire found in the northern part (in Kum, Akteppa, Navrujshah).



資料3-1  
Archeological findings of fire temples in the Soghd region  
Some Sanctuaries, fire altars and Temples of Fire found in the northern part (in Kum, Akteppa, Navrujshah).